

2026年度 大阪公立大学個別学力検査(一般選抜 後期日程)

小論文 文学部「解答例・出題の意図」

第1問

解答例

多くの人がこの戦争でだまされたと言っている。たとえ、多くの人間がだまされたとしても、だまされた人間の責任が解消されるわけではない。だますものだけでは戦争は起こらず、だまされるものもないと戦争は起こらない。だまされたものの罪は、単にだまされたという事実の中にあるのではなく、あんなにも簡単に批判力、思考力、信念を失い、自己のいっさいを委ねるようになった国民全体の文化的無気力、無自覚、無反省、無責任などが悪の本体であると筆者は言う。だが、これを罪とまで言ってしまってもよいのだろうか。今日では、そのような批判力、思考力、信念といった知性がどのような人間にも予め生得的に備わっているという考え方は退けられている。そのような知性は、教育や文化・家庭的要因に大きく起因しているという今日的な考えからすると、それを罪として断罪し、知能の不足を原因とするような発想は疑われて然るべきものだと私は考える。

出題の意図

問題文から読み取れる筆者の論理構成を理解できているかをはかるとともに、その論理を受け入れながらも、批判的に検討していく力を問うている。もちろん、筆者の見解を肯定的に受け入れることも評価される。その際は、筆者の論理をただ反復するのではなく、他の見解を組み入れることなどによって、説得的に補強することが求められる。

第2問

解答例

筆者は、自由映画人集団の目的は文化運動にあるとして、形式的に参加する意思を示し、自身の名まえの使用も承認したが、集団は事前の諒解をえずに尖鋭な政治的实际運動を展開し、筆者の意図に反することになった。戦争の時のだまし・だまされたという関係も、こうした相互認識のずれのように、身近なところから生じるということを筆者は示そうと意図したと考えられる。

出題の意図

問題文の全体から読み取れる筆者の主張や立場を理解できているかをはかるとともに、その理解を前提に、文章中では明確には説明されていない筆者の叙述の意図を類推する思考力と、これを適切に伝える表現力を問うた。

第3問

解答例

筆者が本文を書いたのは戦後すぐで、戦争責任に対する議論が高まっていた時代だが、一般の人々が簡単にだまされて問題になる例は現代にもある。たとえば、ヘイトスピーチは、外国人による犯罪が増えているとか、国民が払っている税金を外国人観光客や移民労働者のために使って、自国の生活困窮者や若者層が割を食っているというSNSの発信が広がり、それを信じた人たちが起こしているという。しかし、インターネットで取材や専門家の調査を検索すれば、実際にはそこまで外国人犯罪が増えているわけでは

ないという統計データも見つかる。ちょっと調べればそうした情報もすぐに出てくる時代なのに、十分に確かめず、差別的な投稿を拡散したり、移民は日本から出て行けというデモ行進に参加したりする人たちが目立っているのは、個人が自分の主張や行動にそれほど責任という意識を持っておらず、またそういう意見に賛成していない人たちも、攻撃されるのを恐れて疑問を投げかける声を出せないことが自分たちの責任だと感じていないからではないだろうか。世論に対して違和感を持った時、信用できる情報を調べてよく考え、責任をもって発言することが現代の個人の責任だと思う。

出題の意図

出題文の内容とそれが書かれた状況をふまえた上で、そこから現代の状況にも通じる普遍的な視点につなげ、自らの経験や意識に基づいて論理的に考察する力と、それを的確に伝えるための表現力を見る。